

雨宮螢（綾瀬はるか）は、家でだらだら過ごすことに幸せを感じるOL。だが、ひよんなことから、会社の上司（藤木直人）と同居することに。さらに、同僚（加藤和樹）との突然のキスを境に、慣れない恋愛に戸惑う日々が始まる。

綾瀬 はるかさん

「干物女」役 自然体で

まっすぐな視線を向けられると、深い瞳に引き込まれそうになる。ひたむきで一生懸命な役にぴったりだ。白血病で世を去る間際まで恋人を思い続けたり、裕福な家の令嬢でありなが

ら貧しい若者との恋に「途」になったり。ところが、今回挑戦する役柄は「干物女」。合コンよりも、帰ってたらだら過ごしたい。仕事はてきぱきこなすが、休日はいびるを

飲んで過ごす。まるで青春時代を干物にしたような生き方、という意味だとか。初めてのコメディ。だが、今までになく自然体で演じられる。役全体に共感

「周りからどう言われても、自分が満足していればそれでいいって考えられるのはすごいこと」勝ち組や負け犬といった言葉がはやりになる昨今。周りが恋に焦っていても流

されず、自分のスタイルを貫けるのは、実は強い女性だからだと思う、というのだ。「だれにでも干物女の部分があると思う。休日は楽な格好でいたいとか、家でごろごろしていたいとか。気楽な気持ちで見ても、ほっこりとした気持ちになってもいいです」

文・清岡央
写真・清水敏明



Q 美容や健康のために気を付けていることは？（千葉市・あんずさん）

A ロケのお弁当が続くと、野菜が不足しがちなので、朝食などで野菜を取るように心がけています。

Q 最近ハマっていることはありますか？（徳島市・はるきめマー坊さん）

A みそ汁にはまっています。和食全般が好きですね。煮魚とか、サワラの西京焼きとかも。

Q 今後、演じてみたい役は？

A コメディータッチの役は初めてなので、今は目の前の役に一生懸命取り組みたいです。

Q 結婚はいつごろしたいですか？

A 25歳から30歳くらいの間には結婚したいです。何か尊敬できる部分がある相手がいいです。例えば、私は機械が苦手なので、機械に強い人とか。ささいなことでもいいんです。



あやせ・はるか 1985年3月24日、広島県生まれ。2000年に「ホリプロタレントスカウトキャラバン」で、審査員特別賞受賞。TBS系のドラマ「世界の中心で、愛をさけぶ」のヒロインを演じて脚光を浴びた。

新築マンション情報も大充実



Q&A